

SPRING

日本大学生産工学部 No.91

2008年8月5日発行

■学部長メッセージ

「5つのキャッチフレーズを目標として」

■SPRING 巻頭特集

学部長対談 / ゲスト: 講師 三野 正洋

「ものづくりの本質に触れる」

■連載 / 卒業生インタビュー

(株) サンスポット 代表取締役

河原 和人さん

■トピックス

電気電子工学科 / 牧野達廣君 第一級陸上無線技術士試験合格

建築工学科 / 宮崎隆昌教授 PACON INTERNATIONAL

PACON SERVICE AWARD 受賞

建築工学科 / 川岸研究チーム 第10回 2007年 まちの活性化・

都市デザイン競技でまちづくり月間実行委員会 会長賞受賞

■CampusNews

活躍する学生たち・第1回風力発電コンペ WINCON2008 他

平成19年度学位取得者・津田沼キャンパス「入試センター」開設

■新任教員紹介 / 平成19年度生産工学部維持会補助金受領者一覧

●ミモミのもっとBikaBika生産工 / ミモミのblog 掲示板



5つのキャッチフレーズを目標として

魅力ある大学づくり

20世紀の資源消費型社会から、21世紀の資源循環型社会への転換の中で、今、生産工学部では、「少子・高齢社会と向き合い」「IT(情報技術)社会と向き合い」「地域社会と向き合い」「環境(地球温暖化等)問題と向き合い」「学生一人ひとりと向き合う」等、本学部の教育や研究と密接に結びつく5つのキャッチフレーズを目標として掲げています。

これらの目標の基、既設7学科を横断的に把ねた学際領域の新設学科(環境安全工学科、創生デザイン学科)を平成21年4月に発足するための準備を進めています。同時に、学生達のアイデアを生かしたプロジェクトを支援すると共に、12号館跡地には誰もが利用できる「デザイン工房(ものづくり工房)」を建設し、演習や実習のみならずものづくりを行うサークル・クラブ活動の受け皿として機能できる状況を整えます。学生への支援(教育、教育環境、ものづくりプロジェクト、自立と社会への順応等)をより一層充実し、学生達からこの大学に入学し、この大学で学生生活を送ることができて良かったと喜ばれる大学を目指しています。

日本大学生産工学部
学部長

石井 進



真の技術者の育成と 環境や地域を重視した取り組み

21世紀の社会に求められる高度な教養と専門知識を持った人材を養成するために、生産工学部は時代に即応したカリキュラムの見直しと授業内容・方法の見直しを常に行い、あらゆる産業において生産性や品質性の向上のみならず、高度情報化技術に対応する安全性や倫理性を身に付けた生産技術や生産システムを構築できる優れた管理技術者の人材育成を行っています。

また、「環境」「持続可能性」「ユニバーサルデザイン」「防災」等をキーワードとして、資源循環型社会への転換へ向けた取り組みや活動を積極的に行うと共に、昨年実現した「南房総市民環境大学」と「市民環境大学いちほら」等を継続していきます。

学生諸君にとって生産工学部における大学生活の4年間は勉強・研究の場であることは勿論ですが、同時に社会に出る前の最後の人格形成の場でもあります。このような取り組みや活動に積極的に参加し、社会の人々と協同(働)することによるふれあいや楽しさを感じ、社会に出て大いに役立つことであると考えています。

▶ CONTENTS



表紙：津田沼校舎 新12号館

Contents

■学部長メッセージ	2	■連載/卒業生インタビュー	14
■SPRING巻頭特集		■ミモミのもっとBikaBika生産工	16
学部長対談/ものづくりの本質に触れる	3	■平成19年度生産工学部維持会補助金受領者	17
■トピックス	7	■ミモミのちょい★「図書館事務課」	18
■CampusNews	10	■新任教員紹介	19
活躍する学生たち/風力発電コンペWIN-CON2008/平成19年度学位取得者/「入試センター」開設		■平成20年度行事予定表・個人情報取り扱い	22
		■ミモミのblog掲示板	23



右：石井 進学部長 左：三野 正洋講師

ヘリとエンジンの展示をとおして、 「ものづくりの本質」に触れて欲しい

津田沼キャンパス正門前にベル47型ヘリコプター、新12号館にはジュピターエンジンが展示され、注目を集めている。これらの展示に大変ご尽力いただいた三野正洋先生をゲストにお迎えして、展示の経緯やそこに込める思いなどを、石井進学部長と語り合っていた。学生諸君への、そしてものづくりへのお二人の熱きメッセージをお楽しみください。



司会：機械工学科 教授 朝比奈敏勝



【BELL47／川崎KH-4 汎用ヘリコプター仕様】

全長: 10.8m, 全高: 2.6m, ローター直径: 10.7m
自重: 726kg
最大離陸重量: 1,100kg, 最大速度: 160km/h
上昇速度: 240 m/分, 上昇限度: 4,200 m/分
ホバリング限界高度: 3,260m
航続距離: 350km, エンジン: ライカミング VO-435-A1D ×1
エンジン出力: 260hp
日本仕様は乗員: 1名, 乗客: 3名



朝比奈教授(以下、朝比奈):石井学部長、三野先生、本日はお忙しい中をお集まりいただきありがとうございます。今回の展示物は、ものづくりを目指す学部学生諸君に大いに歓迎されているようです。これがなぜ企画され展示に至ったのかその経緯をお二人にお伺いしたいと思います。まずは、石井学部長からお願いいたします。

石井学部長(以下、石井):少子化による全入時代、理工科系離れなど、

大学を取り巻く環境は、実は大変厳しいものがあります。その中で、学部の活性化、つまり学生をもっと元気にしようと幾つかのプロジェクトを立ち上げています。三野先生の全面的なご協力をいただいた今回の展示も、そんな活動の一環といえます。今回の展示にあたって、三野先生には本当に感謝しています。

三野講師(以下、三野):私は日大の付属高校を出て、この生産工学部を卒業し、そして教鞭まで執らせていただきました。日大の生産工学部には一方ならぬ愛着を持っています。そこで、恩返しとしては大げさですが、もっと生産工学部をアピールしたいと考え、他に強く印象付けられるものを目に見えるかたちで残したいと、今回の展示を企画しました。

学生の興味を引く 珍しいヘリコプターとエンジン

朝比奈:それが、ヘリコプターとジュピターエンジンになったというのはなぜでしょうか。

三野:私は、物理学という力学が典型的な形で使われているのがヘリコプターだと思います。慣性モーメントの法則、力の作用点など、ひとめ見ただけで、どこに力学が活かされているのかがわかります。

そこで、数年前から学生のためになんとかヘリコプターのメカニズムを学内に展示したいというのが私の一つの夢でした。私が関係しているNPO

法人の航空復元懇話会が動いて、埼玉県、防衛庁、所沢航空発祥記念館にヘリコプターの貸与を働きかけましたところ快いご返事をいただき、今回の展示に至ったわけです。実は古いタイプのヘリコプターではなく最新型のヘリコプターでもいいといわれたのですが、最新型は機械的にブラックボックスになっていて、仕組みがどうなっているかわからない。その点、ベル47型ヘリコプターは全部むき出しになっていて、非常にわかりやすく、学生の興味を引くには最適だと思います。

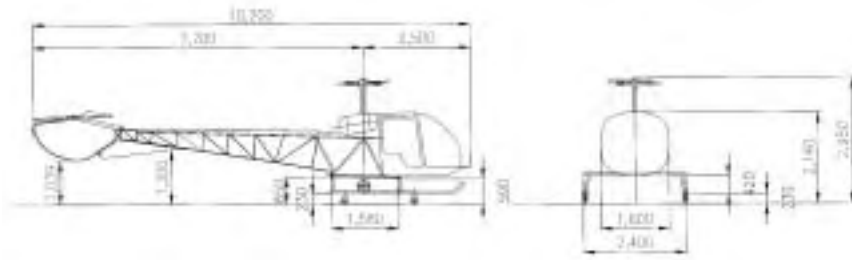
それから、12号館のジュピターエンジンは世界で初めての実用型の飛行機用エンジンです。これも航空復元懇話会が、ロンドンの科学博物館と日野自動車の関係者の協力によって入手できたものをお借りし、展示しています。世界で19基、アメリカの Smithsonian 博物館にもなく、アジアではこの一基だけ。星型空冷航空機用発動機はもう日本にはほとんどないので、学生諸君もこれはどうやって回らんだろうと非常に参考になるのではないかと思います。

付け加えさせていただきますと、あれは450馬力、重量が350キロありますが、今度は同じ航空復元懇話会が、最新型で出力が150馬力、重量が135キロ、同じ空冷の星型発動機を、ニュージーランドから輸入しました。これらを並べて展示することで、80年の時間を超えて、航空機用エンジンがどのように進化したかを実際の目でわかるようにしたいと考えていま



日本大学生産工学部 学部長
機械工学科 教授・博士(工学)

石井 進



す。朝比奈先生と機械の技術員の方々に最大限の協力をいただき、うまくいけばこのスプリングが出る頃には、エンジンが回る状態で披露目できるはずです。

(朝比奈:三野先生には生産工学部報告でも、航空復元懇話会での成果を5~6報、出していただいています。記録という意味も含めて、とても大事なことだと思います。)

石井:三野先生は昭和36年に入学、私は34年に理工学部経営工学科に入学し、35年にできた同じ航空研究会に入っていたんです。学生時代から知っている仲なんですね。実はいま学部のなかの研究環境、教育環境等々を整備していて、これから12号館跡地の1階にものづくりのスペースもある展示場をつくります。生産工学部の目玉となるものを展示し、学生のみならず地域の人たちにも公開しようと思っていますので、これからもご協力をよろしくお願いします。

三野:展示場の開設は、大学として本当に素晴らしいことだと思います。ものづくりの成果をなんらかのかたちで展示できれば、いろいろな方面に強くアピールできるし、学生にとってもとても嬉しいことです。近隣の方はもちろん、高校生や他の大学生も見学に来るような施設になるといいですね。

朝比奈:先日、講義の後に航空研究会の機械科の学生が4人ぐらい来て、展示場の開設をととても喜んでいました。鳥人間コンテストの滑空部門の飛行機を、これからは展示してもらるので作る時の意気込みが違ってくるかと話していました。予想以上に効果が期待できそうです。

学部そして学生を 元気にするためのプロジェクト

石井:展示場の開設もそうですが、先程お話しました学部や学生が元気になるようにと立ち上げているものづくり支援の4つのプロジェクト、フォーミュラカーと鳥人間コンテスト、風力発電、地域貢献の環境大学、これらの中で風力発電が今、結構な話題になっています。これは、三野先生にもご協力いただいていますね。

三野:風力発電コンペですね。これは、発電機を限定しての風車コンペで、少々オーバーに言えば世界初、日本初のコンペです。性能だけでなく、デザイン的なものも評価する大会にしたと思っています。

石井:付属高校を回っていて反響の大きさに驚いています。いずれは、高校に出向いて半年ぐらいの講義の後、今度は大学に来てもらって2~3



教養・基礎科学系 講師

三野 正洋

プロフィール:昭和17年 千葉県生まれ。日本大学第二高校から生産工学部機械工学科卒業。短期間の大手造船会社を経て、生産工学部教養・基礎科学系(物理)勤務。昨年准教授で定年退職。その後現職。学部勤務中はホバークラフト、エアポート、風車システムなどの設計に従事。現在NPO法人航空復元懇話会理事長として、埼玉県所有の中島九一式戦闘機(1931年正式化)の復元プロジェクト委員長を務める。戦史、技術書の著作多数。なかでも『日本軍の小失敗の研究』はベストセラーとなる。趣味はヨットの設計と操縦、古い自動車のレストア、時代小説を読むこと。

日の実習を行い、コンペに参加してもらうような仕組みの大会にしていきたいと思っています。

朝比奈:さて、再三話に出てきていますが三野先生が理事長を務めておられるNPO法人の航空復元懇話会、



【ジュピターVI型エンジン仕様】

形式:星型固定空冷エンジン
シリンダー数:9気筒、ボア:146mm
ストローク:160mm、排気量:24.1リッター
圧縮比:5.3、正規回転数(高度2750m):1775rpm
正規出力(高度2750m):480hp
燃費:240~250(g/hp/hour)、重量:360kg

そして先生の研究についてお話し願えますか。

三野:復元懇話会は15人のメンバーで、1931年製の戦闘機の復元を5年間行っています。埼玉県のご協力をいただき、60%まで進んできています。この復元活動は3年後の所沢飛行場発祥100周年にあわせてのものです。この生産工学部で教えていらっしゃる藤縄雅先生もメンバーに入っています。

また定年退職した身なので研究というにはおこがましいですが、きちんとした研究をしようと思っているのは、古い技術や論文をただ単に集めるというのではなく、特に古いエンジンとメカニズムに関してできる限り面倒でも文章にして、資料として残したいと思っています。

ものづくりの面白さと楽しさをもっと知って欲しい

朝比奈:今回の展示に込めた想い、そして学生諸君には何を感じ取って欲しいとお思いでしょうか。

三野:今回の展示に込めたのは、エンジニアを目指すなら実物をみて実際に触れて欲しいとの想いです。

科学者と技術者はどこが違うかというと、科学者は理論だけでもいいが技術者は理論を理解してものづくりをしないとイケないと思うんです。パソコンとか、本とか、図面とかで、物ができたと思ってしまうのは間違い。



直径60cmの簡単な風車でも、土木の学生諸君と一緒につくってみて、ここがぶつかってちゃんと回らないとか、危ないところにはロックナットを使うとか、そういうことが山ほどあるんですね。

私は設計に関して、ホバークラフト、エアポート(プロペラ船)、直径2mの風車等を行い、そして実物をつくってきました。特にホバークラフトは、私の設計したFBシリーズあわせて350台位生産されています。その時に感じたのは、とにかく実物をつくるというのは非常に勉強になるということ。図面を書いて計算だけしていると、本当に正しいかどうかはわからない。やってみて初めて気づく、今だから話せる失敗がいくつもあります。卒業後会社に入って、ものづくりで致命的な失敗をしてしまうと人生かなりマイナスになりますね。色々失敗するなら、学生時代にしておくべきなのです。

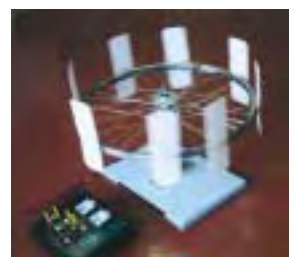
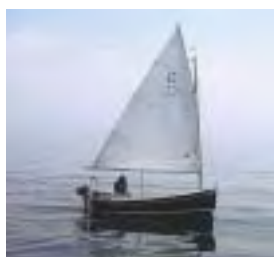
しかも、実際にものをつくることほど面白く楽しいことはない。図面を書いて、手を汚して、強度計算をして

…、あっという間に充実した時間が過ぎていきます。そんな思いを、ここで学ぶ学生諸君には自覚して欲しいのです。

石井:まったくもって仰る通り、同感ですね。今の時代、ものづくりはより専門化、細分化され、製品はより軽量化、小型化になって、高機能性が要求されるようになっていきます。加えて、近年は特に安全性についても大きくクローズアップされてきています。ものづくりの楽しさを知る機会を数多く用意しながら、本学部では安全性を含めて厳しい目で監視できる、いわゆる管理技術を身につけた人間性豊かな技術者の人材育成を目指しますので、これからも三野先生、よろしくお願いいたします。

三野:わかりました。精一杯協力させていただきます。

朝比奈:本日は、石井学部長、三野先生、ありがとうございました。今後も、生産工学部を元気にするため、さらなるご活躍を期待いたします。



左から、オリジナル設計の26フィートモーターセーラー“コンパスローズ”。日頃乗っているクラシックな14フィートのセイルボート。350台も製作された小型ホバークラフトFBシリーズ。自転車のハブダイナモ発電機を利用した垂直軸風車。写真提供:三野正洋

牧野達廣君

第一級陸上無線技術士 試験合格

牧野達廣君が、電気電子工学科の4年生として平成20年1月期に実施された無線従事者国家試験において、第一級陸上無線技術士に合格しました。

第一級陸上無線技術士は、総務省が管轄している無線従事者免許の1つで、第一級総合無線通信士と並んで無線従事者免許の最高峰の資格です。

無線通信に用いる設備の技術操作を行うための資格であり、特に放送局、通信事業者などの無線局の事業者においては必置資格です。

第一級陸上無線技術士は無線通信の技術操作に関しては最高の資格ですので、活躍の範囲も広がります。例えば、(1)ラジオ・テレビの放送局(2)国際通信を行う大電力無線局(3)大型海岸局の送信所(4)無線標識局(5)小電力局であっても、その送信装置の仕組み上から高度の知識技能が要求される無線局が対象となります。

従って、主な活躍の場所は、NHK、民間放送会社、電気通信事業会社(KDDI、NTT、ソフトバンクなど)、運輸省航空局、海上保安庁、気象庁、警察庁、国土交通省などです。

試験の難易度は高く、例年合格率は9%程度です。現役の学部生が合格することは稀です。

牧野達廣君は、3年生の時より受験を目指し、こつこつと勉強を進めてきました。2年間で合格したことは、本人の努力の賜物です。

牧野達廣君は、この3月に卒業し、千葉テレビ放送株式会社に就職し、取得した資格を十分に発揮して活躍しています。



電気電子工学科 4年

牧野 達廣君

日頃の努力の成果が実って
よかったですね!
おめでとう、牧野さん



宮崎隆昌教授

PACON INTERNATIONAL

PACON SERVICE AWARD 受賞

建築工学科の宮崎隆昌教授が、平成20年6月1日から6日にハワイで開催されたPacific Congress on Marine Science and Technology 2008において、「PACON SERVICE AWARD」を受賞されました。この賞は、本国際会議の活動や学術論文発表・研究成果等において多大な貢献があった研究者に贈られます。

PACONは、海洋科学技術に関する国際学会で、ハワイに本部が置かれ、環太平洋沿岸50数ヶ国から多数の参加があります。また、本学とも共同研究等を通じて深い係わりがあります。

宮崎教授は、「沿海における集落の構成原理に関する研究」、「沿岸域における環境形成計画に関する研究」を中心とした長年にわたる研究成果、大学院生の発表指導を通じた若手研究者の育成等が大きく評価され、今回受賞されました。

[PACONによる受賞推薦文]

Prof.Miyazaki has been participated in PACON since 1996. His main research target is environment of the coastal zone, such as Residential Conditions of fishing villages, Land Uses for sustainable development. Especially, he has elucidated the factors that make highly dense populations possible in Japanese coastal villages. Those results were adopted for coastal zone management in JAPAN and USA. In 1990, he had invited by Pennsylvania University as a visiting scholar.Until now, 25 technical papers of his research have been accepted in PACON international. Also, he has been promoted the participation of the student to PACON conference. His graduated students have presented their study to the technical session at PACON conference (1997, 1998, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007 and 2008).Also, he has presided at PACON conference as the session chairman twice (Hawaii 2004 and 2008).By the reason of above, I strongly recommend Prof.Miyazaki to be candidate of this award.



建築工学科

教授 宮崎 隆昌



第10回 2007年 まちの活性化・都市デザイン競技にて、まちづくり月間実行委員会 会長賞(第2位)を受賞



建築工学科 川岸梅和 教授を代表とする川岸研究室チーム(北野幸樹 助手, 博士後期課程3年 杉本弘文, 高松建設(株)小谷雅紀(平成20年3月 博士前期課程修了))は, 第10回 2007年 まちの活性化・都市デザイン競技(課題地:春日部市)〔主催:まちづくり月間実行委員会・(財)都市づくりパブリックデザインセンター, 後援:国土交通省・埼玉県・春日部市〕において, まちづくり月間実行委員会会長賞(第2位)を受賞しました。(平成20年7月)

「共に生きる・活きる暮らし ―まちなかに賑わいを創出するコミュニティスクールと回遊空間―」を作品タイトルとして, 「人」・「活動」・「空間」・「時間」が分離・分化・他律化した「個別分断現象」を結び, 繋ぎ, 自律化した「相互浸透関係」を持つ情況づくりを行うと共に,

生活支援, 交流支援, 文化支援, 教(共)育支援, 環境共生支援, 業務支援等のプログラムより生み出され『コミュニティスクール』(誰でも先生〔演者〕になり誰でも生徒〔観客〕になり学習し合える)と呼ばれる生活・コミュニティ空間を街区空間の結節点と鉄道高架下に適正配置すると共に, 『都心居住』, 『コンバージョン』, 『まちのタカラの再生』, 『まちの顔づくり』を提案しています。

川岸研究室チームの作品は, 『21世紀の共に生きる街の姿として, コミュニティの様々な Activity に対する詳細なプログラム, アイデアが豊富に提案されており, 人の見える, きめ細かく優しい計画となっている。』と西村幸夫(東京大学教授)審査委員長をはじめとする審査委員会により評価されました。

速報!!

鳥人間コンテスト2008 — 滑空機部門出場決定 —

祝 「鳥人間コンテスト」 出場決定!
飛べ! 津田沼航空研究会「燕」!
N 日本大学 生産工学部

今年も、津田沼航空研究会(機体名:燕)が、平成20年 第32回 鳥人間コンテスト選手権大会・滑空部門に出場。皆さんの声援を受けて元気に本大会へ臨み、琵琶湖の風に乗りました!



飛んだ~!!

結果は9月15日(月・祝)のTV放送で!



開催日: 平成20年7月26・27日(土・日)
開催場所: 琵琶湖松原水泳場
大会実行委員会: 読売テレビ

— 今年も開催 — オープンキャンパス I

2008年6月7日(土),8日(日)の2日間、津田沼キャンパスで「オープンキャンパスI」が開催されました。

2日間の開催期間中、昨年同様に高校生をはじめ多くの皆さまに参加していただきました。

各学科の紹介はもちろん、体験学習や模擬授業など実際に生産工学部を体感できる企画を実施。また、皆さんのこれからの受験勉強の進め方や進学のアドバイスを行うアカデミックアドバイザーコーナー、総合進学相談なども行いました。



<開校式>
いよいよオープンキャンパスの始まりです。



<創生デザイン学科>
工学を熟知したデザイナーを目指そう!!



<環境安全工学科>
環境問題に関心のある方はぜひ!!

特に今回は、来年度から各学科のコースが再編され、さらに2つの新学科の開設が予定(文部科学省に申請中)されていることに高校生の皆さんや保護者の方々の関心が集まりました。参加していただいた皆さまに、日本大学生産工学部で学ぶことや、キャンパスライフの魅力を感じていただけたと思います。

第1回

風力発電コンペWINCON 2008

参加募集

日本大学生産工学部は「風力発電コンペWINCON 2008」を開催します。

このコンペは、高校生をはじめ皆さんが独自の発想で風力発電機を造り、「ものづくり」の楽しさを味わうものです。皆さんのすばらしいアイデアをお待ちしております。

1. 主催: 日本大学生産工学部
2. 協力: 環境シンポジウム千葉会議実行委員会
3. 後援: 日本大学生産工学部校友会, 他(申請中)
4. 期日: 平成20年11月2日(日) 搬入日=1日(土)
5. 会場: 日本大学生産工学部津田沼校舎
6. 募集要項

(1) 応募資格

- ① 高校生グループまたは個人(指導教員の許可を必ず得てください)
- ② 市民・大学生グループまたは個人(オープン参加)

(2) 応募

- ① 応募票をご返送願います。(代表者の氏名・所属・連絡先住所電話番号・FAX番号・メールアドレスを記入願います。)

② 申し込み締め切り日

平成20年9月30日(火)午後5時

7. 競技方法

- ① 風力発電機が主催者の用意した送風機による発電量で競います。
- ② 最優秀賞(副賞30万円), 優秀賞, デザイン賞, アイデア賞を表彰します。

みんなで
参加しましょう!

詳細は
生産工学部ホームページ
をご覧ください



概要の提出

風力発電装置の概要をA4の用紙3枚以内にまとめて、10月10日(金)までに主催者に送付してください。

その内容については、以下の事項を要領よくまとめてください。

- (1) 設計のコンセプト
- (2) 構造上の工夫(簡単な図面または写真を添付)
- (3) システムについての工夫, 製作期間, 費用など
- (4) 学校名, 代表者氏名



<http://www.cit.nihon-u.ac.jp/>

連絡先: 日本大学生産工学部

TEL: 047-474-2461

E-Mail: wincon@cit.nihon-u.ac.jp

平成19年度学位取得者一覧

次の方々が平成19年度に博士の学位を取得されました。
今後のご活躍を期待しております。

課程修了によるもの

専攻	学位	氏名	論文題目	学位授与大学	授与年月日
機械工学専攻	博士(工学)	富田 幸佳	自動車の操縦に基づく快感情に関する研究	日本大学	平成19年 9月30日
機械工学専攻	博士(工学)	小島 崇	プローブ車両技術の導入による鉄道の安全性向上に関する研究	日本大学	平成20年 3月25日
土木工学専攻	博士(工学)	山田 泰正	水平気液スラグ流の挙動と管内流動分布特性に関する研究	日本大学	平成20年 3月25日
応用分子化学専攻	博士(工学)	根本 浩史	RNAウイルス感染症の高感度迅速診断を目的とした微粒子免疫凝集法に関する研究	日本大学	平成20年 3月25日
管理工学専攻	博士(工学)	鐘 旭	家電リサイクルシステムにおけるリパス物流の効率化に関する研究	日本大学	平成20年 3月25日
千葉工業大学大学院 工学研究科工学専攻	博士(工学)	岡田 昌樹	放電を利用したプラズマ反応に対する音波の照射効果に関する研究	千葉工業大学	平成20年 3月22日

論文提出によるもの

専攻	学位	氏名	論文題目	学位授与大学	授与年月日
土木工学専攻	博士(工学)	鵜澤 正美	シリカ質系粉体の反応性を考慮した高流動化超高強度繊維補強コンクリートに関する研究	日本大学	平成19年 6月25日
土木工学専攻	博士(工学)	長谷川 光弘	コンクリート構造物の環境水循環による中性化のメカニズムと高耐久化に関する研究	日本大学	平成19年 12月3日
管理工学専攻	博士(工学)	窪田 隆広	薄膜有機樹脂被覆による表面処理鋼板の潤滑特性および耐食性の向上に関する研究	日本大学	平成20年 3月3日



津田沼キャンパス

入試センター開設

今年4月、津田沼キャンパスに生産工学部の入試センターがオープンしました。
 いったいどんなことをするところなのか受験生でなくとも気になるもの。
 そこで、入試センターを訪ねて、白井宏尚課長補佐に入試センターの
 業務などについてのお話を伺いました。



入試のことならおまかせ！ 親切丁寧
 がモットーのスタッフ。



生産工学部を紹介する数々の情報
 誌を取り揃えています。



受験生のためのスペースもある入試相談専用窓口

入試センターがあるのは、津田沼キャンパス正門を入って右手すぐ1号館の1階です。部屋は白がベースの明るい雰囲気空間となっています。入試情報誌や大学案内はもちろん、生産工学部を紹介するパンフレットなどの資料が備わっていて、中央のテーブルで気軽に閲覧できるようになっています。さらに、もっと詳しく知りたいという方には相談コーナーもあり、生産工学部の入試情報・相談に関する準備は万全です。

入試センターの役割を白井課長補佐はこう語ります。「一年を通して高校生はもとより高校の先生方に、生産工学部の受験のための相談に応じる専用窓口です。いつでも必要な情報を提供し、キャンパス見学や出張模擬授業にも対応します」。

AO入学試験説明会や模擬授業のある受験生と大学の双方にとって大切なオープ

ンキャンパスを取り仕切るなど、入試センターの忙しさはこれからが本番。生産工学部の魅力を正しく知ってもらい、受験生一人ひとりにあった学科選びをしてもらうためにも豊富な情報提供をする入試センターの重要性は今後ますます増える一方です。

ここでは学内LANのパソコンでシラバスも調べることができ、入学後の勉強も具体的にイメージできるとか。

「入学を検討されている人に、ぜひ気軽に使っていただきたいと思います。学部の中在校生が高校の後輩を案内してくれる、そんなシーンが増えてくれれば本当に嬉しいですね」と白井課長補佐。

オープン時間＝平日9:00～17:00
 (土曜開館の時＝9:00～13:00)
 電話番号＝047-474-2246



入試センター課長補佐
 白井 宏尚

君たちの周りにも
 入試を考えている受験生が
 いたら、ぜひ活用してネ!



先生は財産!! 学生時代に仲の良い 先生をつくってください

学生が中心のキャンパスをめざして、教職員はもちろんのこと、多くの人々がさまざまなかたちで学生をバックアップしている生産工学部。その中でも一段と心強いサポートをしてくださる卒業生の方々を紹介するのが、このコーナーです。今回は4つの会社を経営しながらNPO法人日本ミャンマー交流協会の財務担当理事としてミャンマーの支援にも尽力する、河原和人さんにご登場いただきました。

4社の代表取締役として活躍されていますが成功の秘訣は何でしょうか

成功しているかどうかはわかりませんが、あえて言えば縁と運とコミュニケーションですかね。昭和58年の電気工学科卒業の時に、某大手電気会社に内定していたのですが叔父が経営していた会社の後継者がいないということで、その会社に入社しました。印刷会社で、仕事は建築関係会社を得意先とする営業職。ところがバブルの崩壊で、叔父の会社が倒産してしまいました。

その負債を整理して再建させたのが、平成13年設立の株式会社東工です。また、同時期にたまたま縁があって、株式会社ケイ・バインダリーという老舗製本会社の再生にもかかわり、会社の代表取締役になっています。

不採算部門を切り離し、従業員はリストラせず、迷惑をかけた得意先には誠心誠意あやまる。口で言うほど簡単ではないのですが、人と人とのコミュニケーションを大切にして信頼関係を築くことをとても重視してきました。それが会社の再建に活かされ、また他の2社の会社設立と運営にも役立っているのだと思います。

どんな大学時代を過ごし、そこで培ったもので役立っているものはありますか

大学では石橋研究室で非破壊検査を学んでいました。スキー部に所属し、ノルディック競技をやり、オール日大で優勝したこともあります。勉強の面で言えば真面目な学生ではなかったのですが、先輩や後輩、それから先生方とのお付き合い、いわゆる交流は優の評価をいただけるほどだったと思います。このときに培ったコミュニケーション能力が、私のその後の人生で大いに役立っています。

大学時代に、今の生産工学部学部長の石井先生とも知り合えました。尊敬できる恩師であり、卒業以降も的確で温かなアドバイスをしてくださる人生の先輩としてもお付き合いいただいています。ミャンマーとご縁も実は石井先生が取り持ってくださったものです。

NPO法人日本ミャンマー交流協会ではどんな活動をなさっているのですか

ミャンマーの留学生の面倒をみたことがきっかけでした。石井先生がNPO法人日本ミャンマー交流協会の理事長に就任されており、ミャンマーに支援の手を差し伸べたいので河原も手伝えと石井先生に



恩師である石井学部長と。



左から：白内障手術を実施中の藤田医師（ヤンゴン眼科病院）。ヤンゴン事務所で内定者に訓示中の石井学部長（右端）。雇用が内定したエンジニアたちと記念撮影。写真提供：河原和人

言われて、参加させていただくことに。その後、若手エンジニア雇用支援事業、海藻養殖支援事業、眼科医療支援事業など、さまざまな活動を行ってきました。

若手エンジニア雇用支援事業は、国立ヤンゴン工科大学卒業生に1年間日本語を勉強してもらい、日本で就職させようというスキームです。エリート・エンジニアになるべく優秀な人材でも就職先がなく、皿洗いに従事せざるを得ないのがミャンマーの現実。日本でエンジニアとしての技術を磨き、いずれミャンマーでその技術を活かしもらえればと考えてのものです。今年、7人が日本の企業に正式採用されて来日しています。

また、今年5月2日から3日にかけて大型サイクロンがミャンマーを襲い、甚大な被害が発生しました。国内700万人以上が水害の影響を受け、死者の数は10万人以上。ミャンマーの学生たちの安否を心配する石井先生の協力依頼で、5月10日にヤンゴン入りし学生たちの無事を確認した後、現地関係者と調整して、5月17日にヤンゴン南部デルタ地帯のひとつに緊急支援米などを運び、現地の人たちにとっても感謝されました。その後も、協会は石井先生の指揮のもとさまざまな追加支援を行っています。



(株)サンスポット 代表取締役 河原 和人氏

最後に生産工学部OBとして後輩達へのアドバイスをお願いいたします

説経がましいですが、まずは君たちはあらゆる面で恵まれています。生産工学部の就職実績は全国の大学の中でもトップレベル。これは、先輩諸氏や先生方の努力の積み重ねによるものです。また、

少々の失敗は許される環境にもあります。だから、いろんなことにチャレンジしてください。失敗の中にこそ、成功の種があるということを私自身学んできました。

そして、ひと波もふた波もあるのが人生。特にこれからの時代はフラットで安泰な人生などないと思ってください。そのためにも、自分は何が好きか、何をしたいのかロン

グスタンスで良いので考えながら生きてください。好きなものに出会える人生は幸せです。

それからこれは私のとおきのアドバイス、「一人でもいいから、仲の良い先生をつくってください。先生は財産です!!」。生産工学部には、せっかく素晴らしい先生方が数多くいらっしゃるのですから。

【PROFILE】

昭和35年生まれ。千葉県松戸市出身。昭和58年3月に生産工学部電気工学科卒業。印刷会社に就職するが会社が倒産。その後、(株)東工、(株)ケイ・パインダリー、(株)シルバーウイング、(株)サンスポットを設立し、それぞれの代表取締役を務めている。また、石井学部長が理事長のNPO法人日本ミャンマー交流協会の理事として、ミャンマーの支援活動にも携わっている。



〈取材後記〉

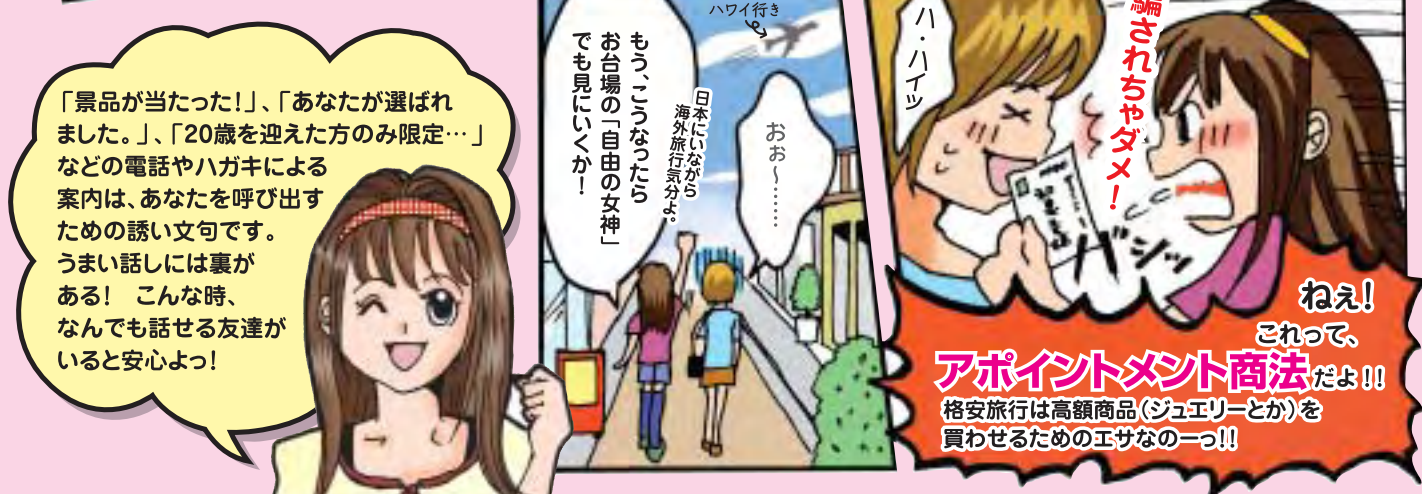
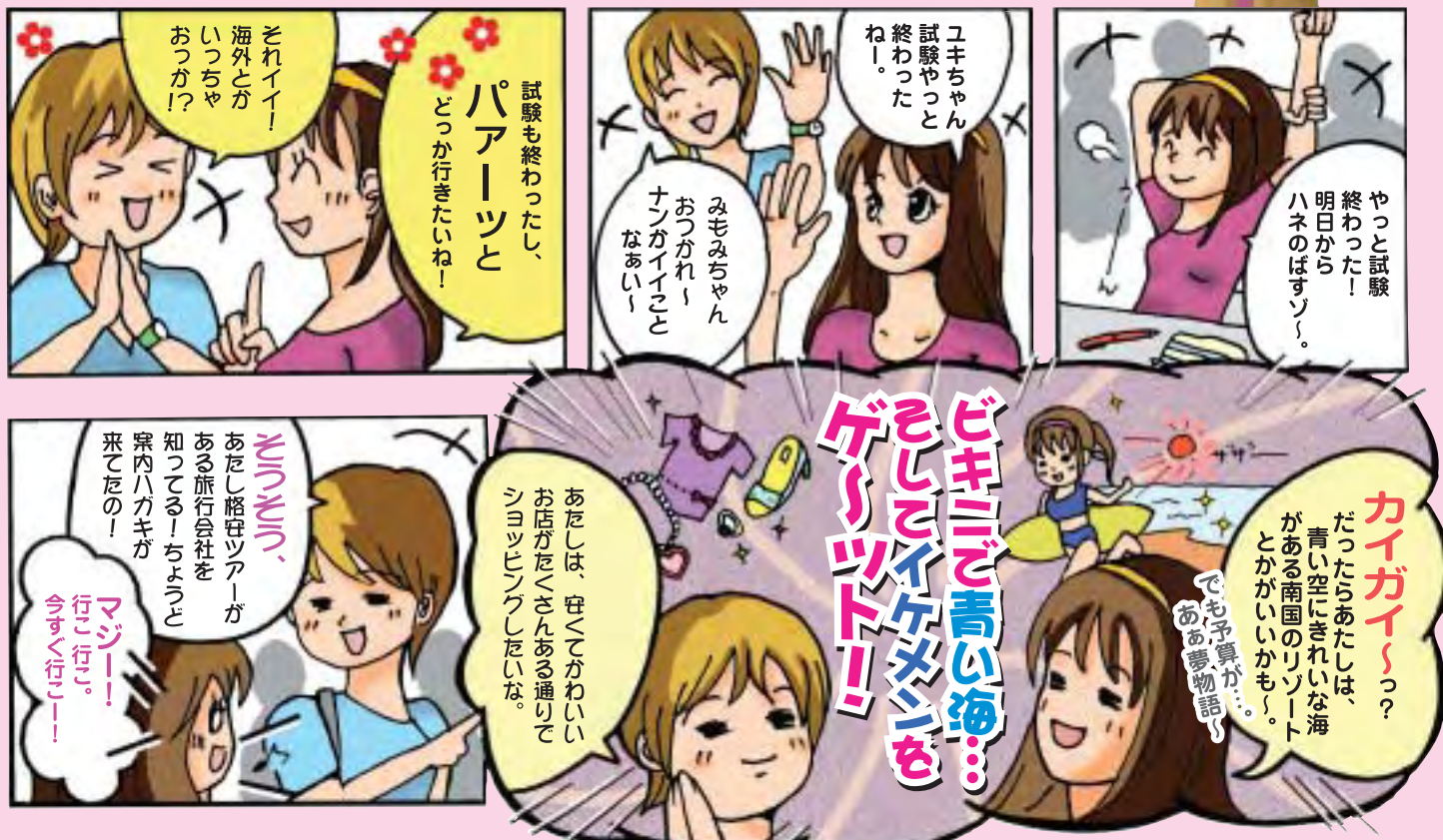
河原さんは、生産工学部OBとしてはある意味で異色の存在。エンジニアとしてではなく、経営者としての才能を見事に開花させています。話題の折々に出てくる言葉は、“人と人のつながり”，そして“コミュニケーションの大切さ”です。決して順風満帆ではなかったはずなのに、河原さんは好きなことをしているので毎日ウキウキ楽しいと笑顔を絶やしません。とても元気をいただける方でした。



もっと BikaBika 生産工



アポイントセールスには気をつけてネ! の巻 画:さとう ゆき



平成19年度 生産工学部維持会補助金受領者一覧

生産工学部維持会の事業の一環として、自費等で行かれる
海外出張者に対し支給していただき、研究に役立てました。

所属	氏名	目的地	期間（日間）	目 的
機械	村田 守	アメリカ	5月16日～5月25日(10日間)	米国矯正歯科学会における研究発表
教養	中條清美	マレーシア	6月8日～6月11日(4日間)	アジア外国語教育国際会議
建築	師橋憲貴	イギリス	6月9日～6月16日(8日間)	SCMT国際会議における講演発表
建築	大内宏友	オランダ	6月22日～6月29日(8日間)	ENHR国際会議
数情	柄達孝也	フランス	6月24日～7月1日(8日間)	ISIT2007国際学会発表
機械	大久保通則	クロアチア	6月30日～7月12日(13日間)	国際溶接学会
教養	福田 隆	イギリス	7月1日～7月8日(8日間)	国際数論シンポジウム
土木	五十畑弘	イギリス	7月1日～7月9日(9日間)	イギリス土木学会記念カンファレンス基調講演
数情	西澤一友	チェコ	7月8日～7月13日(6日間)	ECOR国際会議
電気	星川 洋	アメリカ	7月21日～7月29日(9日間)	定量的非破壊評価会議
数情	篠原正明	チリ	8月1日～8月10日(10日間)	AHP国際シンポジウム
数情	大澤慶吉	チリ	8月1日～8月10日(10日間)	AHP国際シンポジウム
事務	小島 真	アメリカ	8月2日～8月13日(12日間)	海外教育機関等視察
事務	安部文三	イギリス	8月16日～8月25日(10日間)	教育文化事情視察
応化	山田和典	アメリカ	8月20日～8月27日(8日間)	アメリカ化学会
電気	霜山竜一	スペイン	8月31日～9月9日(10日間)	ICA2007
電気	中西哲也	イタリア	9月2日～9月10日(9日間)	国際会議での講演のため
MA	洞内祥次	中国	9月19日～9月24日(6日間)	国際会議での講演のため
数情	細川利典	中国	10月9日～10月11日(3日間)	ATS'07出席
数情	角田和彦	ハワイ	3月17日～3月23日(7日間)	計算理工学国際会議

お知らせ

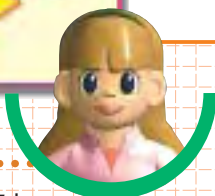
会計課からのお知らせ

授業料その他の学費は期日までに指定の
振込用紙を使用のうえ、下記期日までに
納入してください。

学費等の相談及び
教育ローンを
利用される方は
会計課窓口まで。

前期分= **4月末日** 後期分= **9月末日**





アーキビスト

“知”のarchivist 図書館事務課

2回目の「ミモミのちよい★」は、生産工部部を影で支える図書館事務課を紹介。昭和48年に開館し、現在約23万冊の蔵書をもつ“知のアーカイブス”を管理・運営する方々の職場を訪問。主任の玉盛さんにお話をお聞きしました。



図書館の舞台裏では蔵書や施設の管理・運営がおこなわれていました。

図書館事務課の 主な業務は何ですか？

図書館事務課の主要な業務は大きく分けて3つあります。

一つは、図書の購入・管理・保存といった蔵書等の管理業務。これは基本中の基本ですね。二つ目は図書館の施設・設備全般にわたる管理・運営。そして三つ目は、利用者サービスです。その中でも図書館間の相互協力に関する業務に力を入れています。

ミ：結構仕事の範囲は広いですね。



主任のお仕事の内容 をお聞かせください？

具体的には、先生の研究に必要な本や、図書館に必要と判断された書籍などを書店に注文し、受入れをしています。受け入れた本は、大学の大切な資源として、まずはじめに図書台帳に登録し蔵書として管理データを作成した後で書架に配置します。

そして、その本が紛失しないよう定期

的に点検・管理チェックも私たち事務課の大切な仕事です。

また、図書館の運営業務では、書籍の貸出しはもとより、書籍を収集する方針を決めたり、他の図書館との相互協力を推進したり、皆さんが必要とされている情報を入手するための手助けなど、図書館をより便利に利用してもらうための計画・立案の実施に関する業務をおこなっています。

ミ：体力も必要なんですね。

現在取り組まれている重要な業務は？

現在、図書館にある本は、出版されてからかなりの年月を経た書籍が多数収蔵されている状態です。これらを順次、新しい本へ入れ替える作業が進められています。

また、利用者の方が必要とされる本が貸し出し中で、利用できない状態を少しでも解消するために、利用頻度が高い本を増やしていく作業も推進しています。

一方で最近、図書館を利用される方が以前に比べ激減していると感じます。



そのために、私たち事務課の職員も「図書館をもっと利用してもらうために何をしたらよいか」を検討しています。

その手始めに、学生の皆さんが必要と思う本を書店に同行して選んでもらう「選書ツアー」を開催しています。「自分たちが読みたい本がある」、「便利に利用できる」と喜ばれる図書館を目指し、これからもアイデアを行動に移したいと取り組んでいます。

ミ：選書ツアーは楽しそうですね。

利用者の方に お伝えしたいことは？

本学図書館は、日本大学でも最初に図書館のコンピュータ化を導入した先進的な取り組みを進めてきました。その伝統は今も引き継がれ、現在も日本大学の図書館を牽引する立場にいます。学生証による利用はとても便利なシステムだと思います。

これからも、大学図書館として、新しい技術を導入し、利便性の高い図書館を目指していきたいと課員一同取り組んでいます。ぜひ図書館へ足を運んでください。

ミ：これからも親しまれる図書館を目指してがんばってください！

図書館事務課 主任
玉盛 明子 (たまもりあきこ)

短大専攻科卒業、幼稚園教諭を経て図書館事務課勤務。趣味は音楽鑑賞、観劇、ソーシャルダンス。

◆ 新 任 教 員 紹 介

電気電子工学科

2008年4月に電気電子工学科に着任致しました。それまでは、電機メーカーでテレビやビデオの研究を行ってまいりました。専門は画像符号化、コンテンツセキュリティです。画像を媒介として皆さんの生活を豊かにする研究を行ってきたいです。授業は電磁気学Iと電気電子計測Iと電気電子工学実験Iを担当しています。とかく難しいといわれる科目ですが、わかりやすい授業を目指していきます。



准教授

伊藤 浩
(いとう ひろし)

土木工学科

私の専門分野は土砂水理，講義は河川工学を担当しています。現在の研究テーマは，天然ダム（河道閉塞）に関する研究です。また，流砂量計測の研究も行っています。天然ダムの実験は13号館の実験棟で実施予定です。興味のある方はご覧ください。また，講義でも河川のみならず現地調査などの話になってしまうこともあります。でも，その話も経験がベースなので，学生諸君には社会に出てから役立つのでは(?)と思っています。



准教授

小田 晃
(おだ あきら)

土木工学科

私はこの3月までの39年間北海道大学で土質力学・地盤工学分野の教育・研究に携わってまいり，定年退職ののち縁あってこの4月に総合科学研究所所属，生産工学部土木工学科の担当教員として迎えていただきました。これまでに得た知識や経験を若い世代に受け継いでいただくよう努力するとともに，「地盤」と密接に関わっている「環境」「防災」といったキーワードで表される諸問題に心新たにに取り組んでいきたいと考えております。



研究所教授

三田地 利之
(みたち としゆき)

応用分子化学科

平成元年に東京都立大学（現首都大学東京）大学院工学研究科を修了し，企業で新規医薬品の分析法開発に従事した後，出身大学に戻ってクロマトグラフィーを中心とした分析化学に関する研究を行って参りました。この間，（独）産業技術総合研究所にて標準物質の値付けに関する分析手法の開発も手がけました。今後も今までの経験を生かして本学部の教育・研究の発展に貢献していきたいと考えておりますので宜しくお願い致します。



准教授

中釜 達朗
(なかがま たつろう)

応用分子化学科

専門は生命科学（発生生物学／分子細胞生物学）。横浜生，フェリス女学院中学校・千葉大理生物を経て京大大学院理学研究科修了，理学博士。JSTさがけ研究21，理化学研究所，ケンブリッジ大学等の研究員等を経て，2005年より日本大学大学院総合科学研究所生命科学専攻准教授（現在も担当）。2008年より現職。主な業績は細胞接着分子カドヘリンの同定と命名，機能解析。趣味はバイオリン演奏，声楽等。



准教授

野呂 知加子
(のろ ちかこ)

マネジメント工学科

平成10年に管理工学専攻の修士課程を修了し，東京工業大学化学工学専攻の博士課程に進学・修了しました。その後，企業のシステム課で約2年働いた後，前述した東工大において助教として約4年働き，4月よりマネジメント工学科で助教，というように一貫性の無い経歴ですが，逆にこの経験を生かして教育・研究を行い，日大の発展に全力を尽くしたいと思います。なお，専門は材料の信頼性に関する研究を行っています。



助教

酒井 哲也
(さかい てつや)

◆ 新 任 教 員 紹 介

マネジメント工学科

この春まで製薬会社の研究所に16年間在籍をしていましたが、以前より大学院で非常勤講師を務めていたことから、本学に勤務することとなりました。品質工学という日本では馴染みが薄い、メカや工程、分光分析、医学データ、人体能力、経済性評価等とさまざまな対象を扱う汎用的学問を専門としています。4月に着任したばかりで、また社会人と学生とは教え方から異なるので色々と戸惑っているところもありますが、どうかよろしくお願い申し上げます。



准教授

矢野 耕也
(やの こうや)

数理情報工学科

2008年4月より数理情報工学科に助教として赴任しました。これまでコンピュータで実現する知能をテーマに、確率論に基づく推論などの基礎理論、進化の過程を模倣した進化的手法による最適化、人間の行う柔軟な処理を目指した脳をモデルとしたニューラルネットワークなどの研究を行ってきました。どうしたらコンピュータにより賢いことをさせられるかを学生の皆さんと一緒に考え、この分野の面白さを伝えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



助教

山内 ゆかり
(やまうち ゆかり)

教養・基礎科学系

Arwen Niles holds a B.S. in Education, and a minor in Spanish from Kent State University in Ohio, US. She also earned a Certificate to Teach English as a Foreign Language (TEFL) and an M.A. in Teaching English as a Second Language (TESL) from the same university. Before coming to Japan, Ms. Niles taught students from kindergarten through university in Chicago and Ohio in the United States, as well as in Germany and Mexico. Her research interests include service learning and cross-cultural education, learning and language difficulties in first and second language acquisition, and African American Vernacular English (AAVE).



助教

アーウェン ナイルズ
(Arwen Niles)

教養・基礎科学系

インドアスポーツ(卓球, バスケットボール, バドミントン, トレーニング), アウトドアスポーツ(テニス)を担当しています。運動生理学, 神経心理学を専門とし, ヒトを対象に非侵襲的手法を用いた実験的研究を行っています。現在は, 安全且つ効果的に運動を実施するためガイドライン作成を目指し, 運動時に増加する脳血流と循環応答の対応について, 近赤外分光法を用いた脳酸素動態を指標に基礎的研究を行っています。



助教

岩館 雅子
(いわだて まさこ)

教養・基礎科学系

昨年度までの9年間, 東京大学宇宙線研究所研究員としてチベット実験に参加し研究を行ってきました。標高4300mのチベット高原に設置された宇宙線観測装置を用い高エネルギー宇宙線の起源, 組成, 加速機構や星間磁場構造の研究を行っています。本学では非常勤講師として5年間, 物理学実験を担当してきました。本年度より講義も担当します。科学の面白さ, 物理の考え方を伝えられたらと思っています。よろしくお願いします。



助教

塩見 昌司
(しおみ あつし)

教養・基礎科学系

専門は憲法学で, 憲法秩序の維持という観点から違憲法令審査権の研究を進めています。現在, 日本国憲法や司法制度を取り巻く環境は, 国民投票法や裁判員法などの制定で, 敗戦に伴う占領改革以来の大変革期に入り, 私たちの生活に影響が出てくるのも必至の状況となりました。そのため一般教養といえども法学の世界に触れる意義は大きく, 私共皆さんのお役に立てられるよう, 授業や研究を通して頑張っていきたいと考えています。



助教

高澤 弘明
(たかざわ ひろあき)

教養・基礎科学系

生まれてから高校を卒業するまで大阪，大学からこの春まで仙台に住み，4月に千葉県に引っ越してきました。専門は整数論で，最近，暗号理論で話題に上がることの多い楕円曲線論や，与えられた方程式の整数解を調べる不定方程式論について研究しています。ほとんどのスポーツを好んで観戦します（テレビですが）。音楽は，邦楽も洋楽も，70年代のものをよく聴きます。どうぞよろしく願いいたします！



助教

藤田 育嗣

(ふじた やすつく)

教養・基礎科学系

3月まで東京理科大学で助手として研究と教育を行い，4月に教養・基礎科学系助教に着任しました宮崎です。今年度は，化学生物実験と基礎化学演習，化学演習を担当いたします。研究分野は分子科学・光化学で，孤立状態における錯体の構造について研究しています。今後は，工学的要素を取り入れた研究と講義・実験を通じて楽しく安全に化学を学んでもらえるよう頑張っていきたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



助教

宮崎 淳

(みやざき じゅん)

教養・基礎科学系

津田塾大学英文科でシェイクスピア劇を学び，イギリスのカンタベリ大学に留学。早稲田大学大学院西洋演劇科でギリシャ悲劇を専攻し，アテネ大学に留学。翻訳や評論を通して実際の舞台活動にも携わる実践派の研究者です。舞台芸術にまったく興味も関心もない理系学生に，演劇や映画など視覚芸術がもつ，ドキドキするような知的快感を伝えることに情熱を注ぎ続けて，今年で13年目。「芸術と文学」の授業でお会いしましょう。



教授

山形 治江

(やまがた はるえ)

教養・基礎科学系

1971年生まれ，沖縄県出身。学位取得後，琉球大学非常勤講師，大阪大学工学部特任研究員，核融合科学研究所研究員を経て2008年4月より教養・基礎科学系列物理の助教として赴任いたしました。専門分野は，物性理論，特に超伝導の理論的研究，及び分子動力学シミュレーションによるプラズマ-固体相互作用の数値解析を主な研究対象としています。趣味は音楽（聴くこと），小説（読むこと）。



助教

山城 昌志

(やましる まさし)

教養・基礎科学系

私は認知科学としての言語理論モデルの構築を研究課題としています。人間による「言語の産出（生成）」および「言語の理解」という両側面を研究しています。前者は自分が伝えたいことを言語表現として産出する作業であり，後者は言語による情報を受け取り，その意味を理解しようとする作業です。将来は，コンピュータに実装できる自然言語理解システムの実現，機械翻訳技術の発展に少しでも貢献できればと思います。



助教

横田 賢司

(よこた けんじ)

新任教員のみなさん
よろしくお願いします！



平成20年度行事予定

行 事		2～4年次:津田沼校舎	1年次:実籾校舎	大 学 院	備 考
後 期 ガ イ ダ ン ス		9月16日(火) ※応用分子化学科1・2年のみ9/12(金)・9/16(火)		9月16日(火)	
後 期 授 業 開 始		9月17日(水) ※9/17(水), 1/14(水)は月曜授業を実施, 9/18(木)は火曜授業を実施			詳細は別途指示
A O 入 学 試 験		9月13日(土)・9月20日(土)			
卒 業 式		9月27日(土)		9月27日(土)	
学 位 授 与 式 (9 月)					
創 立 記 念 日		10月4日(土)			休校
編 入 学 試 験 (2 年 次 ・ 3 年 次)		10月11日(土)			
学 部 祭 (桜 泉 祭)		11月1日(土)～11月3日(月)			
指 定 校 制 推 薦 入 学 試 験		11月15日(土)			
外 国 人 留 学 生 入 学 試 験		11月15日(土)		11月8日(土)	
帰 国 生 入 学 試 験		11月15日(土)			
体 育 推 薦 入 学 試 験		11月15日(土)			
校 友 子 女 入 学 試 験		11月15日(土)			
付属高等学校等入学試験(付属推薦B方式)		11月22日(土)			
博 士 論 文 提 出 期 日				11月27日(木)	
学 術 講 演 会		12月6日(土)			
公 募 制 推 薦 入 学 試 験		12月13日(土)			
付属高等学校等入学試験(付属推薦A方式)		12月20日(土)			
冬 季 休 業		12月24日(水)～1月8日(木)			
後 期 授 業 終 了		1月14日(水) ※1/14(水)は月曜授業を実施		1月29日(木)	
補 講		土曜日及び1月15日(木)に適時実施			
大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験 (C 方 式)		1月17日(土)・18日(日)			
後 期 試 験		1月16日(金)～1月30日(金)			
修 士 論 文 概 要 (初 稿) 提 出 期 日				1月29日(木)	
入 学 試 験	A 1 方 式	2月1日(日)			
	A 2 方 式	2月9日(月)			
	A 3 方 式	2月19日(木)			
追 試 験		2月12日(木)・13日(金)			
修 士 論 文 提 出 期 日				2月23日(月)	
大 学 院 入 学 試 験 (第 2 期)				3月7日(土)	
転 科 試 験 (2 年 次)		3月上旬			
卒 業 式 ・ 学 位 授 与 式		3月25日(水)		3月25日(水)	日本武道館

ガイダンスの日程は学科・学年により異なる。



個人情報の取扱い告知文

日本大学生産工学部

入学手続時及び在学中に収集する学生本人及び保証人の氏名、住所、生年月日及びその他の個人情報は、学籍・成績管理、教育、学生生活支援、学費の案内、図書館利用、就職支援等及びこれらの業務に付随する学生及び保証人への連絡・通知・掲示等、本大学の教育事業に必要な範囲で利用します。

また、これらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合、当該業務の委託を受けた業者は、上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用することはありません。

なお、本大学では、学生への教育・指導をより適切に行うため、保証人に対して学生の学業成績及び出席状況等の開示並びに履修状況等についての相談を行う場合があります。

(問合せ先) 生産工学部教務課・学生課



“ものづくりな人々”を応援する“ものづくりな雑誌” 自由な発想とアイデアが、ものづくりの原点なのだ!

創刊以来、ものづくりの楽しさを紹介してきた『ドゥーバ!』と関連書籍。



ハア〜い! 皆んな元気?

今号のblog 掲示板は雑誌編集会社紹介。
ユニークな視点で「ものづくり」を楽しむ
人々を紹介してきた『ドゥーバ!』編集長に、
ものづくりのヒントをお聞きました!

『ドゥーバ!』を仕事にしよう!と 思ったきっかけは何ですか?

『ドゥーバ!』は、11年前に創刊された「週末DIY・手作りライフマガジン」を標榜する男性誌です。日曜大工、木工、庭作り、男の居場所作り、隠れ家作り、手作りエネルギーなど、モノを単純に消費するのではなく、生活の中に「作る」＝「創る」＝「造る」を取り入れることで、人生をより豊かなものにします。そんなライフスタイルを提案する雑誌です。

創刊前、私が関わっていたアウトドア雑誌で「オートキャンプアイデアコンテスト」を開催したところ、驚くほど多くの読者が「車の改造アイデア」や「手作りのキャンプグッズ」などを投稿してきました。「世の男性は何かを作りたいがっている」と直感したのが、『ドゥーバ!』の創刊企画書を書くきっかけになりました。

「ものづくりを楽しむ人たちに」 共通するものは?

DIYには、生活に必要な身のまわりの修理やメンテナンスを主眼とする「生活DIY」、生きるために必要な「サバイバルDIY」、それに生活を楽しむための「エンタテインメントDIY」の3種に分類可能だと思いますが、『ドゥーバ!』は明確に「生活を楽しむためのDIY」をおもな取材対象としています。強制されたものづくりではなく、自分がおもしろがるものづくりにひたすら向かう。それは家族に喜ばれるものであったり、自分の趣味の空間作りであったり、非常に多岐にわたりますが、おそらく共通するのは、つくった結果を楽しむのではなく、つくるプロセスを楽しんでいる。なにかをつくりあげる達成感に軸足を置いているということでしょうか。安価に、早く、より完成したものがほしいなら、買ったほうがいいでしょうから…。それからもうひとつ。ものづくりに向かう人はなにかをつくりあげたら、さらに次のステップ

へとエスカレートする。ものづくりを楽しむ人にはそんな傾向があります。

今までのお仕事で忘れられない 出来事ってありますか?

創刊後、1年間は赤字が続いて、苦しい時期でした。商業雑誌は編集、販売、広告の三位一体のコンビネーションがあつてはじめて成立するのです。彼らとのコミュニケーションを測り、我々の情熱に理解を持ってもらうことへの努力、さらに企画の失敗など、いくつかの紆余曲折を経てはじめて黒字に転じた時は感動しました。さらにその後、販売部門のご苦労もあって、はじめてホームセンター（カインズホーム）での扱いが決まったときも至福の喜びに酔いました。取材でウッドデッキやパン釜など、ビッグプロジェクトのものづくりレポートになることも多く、作品が完成したときのうれしさも数多く経験しましたが、我々編集者にとっては、『ドゥーバ!』の編集そのものがものづくりなわけで、いい雑誌をつくることへの意識がぶれてはいけなさと肝に銘じています。隔月刊ベースの雑誌ですから、2カ月に一度締切があるわけで、その度ごとの感動や記憶があるべきだと思っています。

私たち日本人はものづくりが 上手と言われますか?

日常生活のなかに激しいデジタル化の波が押し寄せてきて、注意深く対応しないしていると溺れ死にしようです。『ドゥーバ!』読者に見られる、汗を流し、自らの肉体を駆使したアナログ的なものづくりとは、こうしたデジタルで、ブラックボックス的な社会の在り方とバランスを取るための衝動的な行為であるともいえます。週末、近くのホームセンターで購入してきた木材で、家族のために、椅子やテーブルをつくる。デッキをつくる。そういう健全さや喜び。プランから完成まで、すべてを自分の管理下に置いた確かなものづくり。時代がハイテク化し、デジタル化すれば

するほど、一方で、己の肉体を使ったアナログ的なものづくりはサブカルチャーとしての価値をますます高めるように思います。実際、世界の先進国のなかで、日本ほどDIYや日曜大工文化が遅れている国はないといわれています。ハイテク化とアナログ的なものづくり文化がバランスよく共存しているのが欧米のDIY先進国であるならば、日本はまだまだその域に達していないといえます。市民生活のなかに、さまざまなものづくりが普通に見られ、消費傾向やマーケティングが少しずつ変わる。希望的観測ながら、そんな近未来を予測しています。

就職活動を始める学生へ 編集長からアドバイスを!

身近な理工学系の学生といえば、大学院で建築を学んでいる私の息子がいますが、とくにアドバイスはありません。出版の世界と建築の世界では直接的な接点がそれほど多くなく、第一、息子自身が父親からのアドバイスを期待していないからです。(笑)

ただ、いつも思うのは、「給料や待遇など、即物的な条件のよさだけに目を向けるのではなく、本当に自分がのれる業界を選んだ方がいいぞ」ということです。自分の好きな職業というよりは、自分にあった職業選び。これはやはり、自分を客観視する＝自分をポジショニングできる能力が問われるんでしょうね。

ミ: 今日ありがとうございます。これから「ものづくりな人々」を応援してくださいね。

*『ドゥーバ!』はインターネットでも、ものづくりな人々を多角的に応援しています。『ドゥーバ!』で検索して、ものづくりのヒントを探してみてください!



道具の機能チェックも大切な仕事のひとつ。

History of CIT

新12号館

新12号館は永年機械工学科の工場・実験室・研究室・教室として利用されてきた12号館(昭和45年竣工)の老朽化に伴い建設されたものです。12号館の機能を引き継ぐと共に、実験・実習を充実し、(機械工学科の点在している施設を統合)、効率的に教室研究環境の充実・改善を図ることを目的としています。工場・実験室・研究室と用途の違う諸室を機能的に配置し、機械工学を学ぶ学生にふさわしい、学生の創造性を育む施設となっています。



101 機械実習工場

概要

名称：日本大学生産工学部津田沼校舎新12号館
階数：地上5階
建築面積：1,385.00m²
延床面積：4,056.15m²
完成：平成18年2月28日

ス プ リ ン グ
SPRING No.91
(日本大学生産工学部だより)

平成20年8月5日発行

編集・発行 日本大学生産工学部 広報委員会

本誌に関する照会その他は下記へお願いします。

〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1 日本大学生産工学部 庶務課

電話 047-474-2201 FAX 047-479-2432

E-mail:kouhou@cit.nihon-u.ac.jp

www.cit.nihon-u.ac.jp